

令和 7 年度 学校総合評価

1 今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状と課題を踏まえ、重点課題の3項目について、課題解決に向けて当該分掌部が中心となり全教職員の共通理解を図りながら、取り組んだ。評価は以下のとおりである。

- (1) 「目指す児童生徒像」「しらとりスタッフポリシー(試案)」に基づく指導・支援の充実
教員のニーズに応じた内容で企画し、それぞれの企画を複数回行うなどして参加しやすい環境設定に努めたことで、延べ260名程度の参加があった。学んだことをもとに日々の子供たちへの指導・支援に生かそうと、小グループでの勉強会を行ったり、講師を務めた教員に具体的な事例について質問や相談をしたりする姿が見られ、教員の多様な学びの場の広がりにつながるきっかけとなった。
- (2) 災害発生後のより確実で安全な保護者への引き渡しの体制整備
保護者案内で訓練当日の保護者の動きを地図等で具体的に示したり、保護者の負担軽減のために正面玄関で児童生徒を引き渡しする方式を取り入れたりして、年2回の引き渡し訓練を実施した。また、第1回から第2回に向けて、マニュアルの見直しを行い、改善点についての学習会を実施することで、教員への訓練内容の周知を図ることができた。訓練後のアンケートでは約9割の保護者から引き渡しについて「スムーズであった」との回答を得ることができ、本校の課題であるたくさんの児童生徒を混乱なく確実に保護者に引き渡しできる体制を構築することができた。
- (3) 読書の充実を目指した図書委員会の活動
図書委員による読み聞かせの回数は10回となり目標を達成した。読み聞かせを繰り返すことで、本の内容に興味をもち、図書室で本を手にする児童が増えてきた。「読書の木」に参加した児童生徒は66%となり、目標の80%には今一步届かなかったが、お薦めの本を記入した葉っぱを一人で複数枚貼ったり、貼られた葉っぱに興味深く眺めたりする児童生徒がおり、読み聞かせを含む今回の取り組みは、本に対する興味関心の向上や読書への意欲向上のきっかけとなる活動となった。

2 次年度へ向けての課題と方策

- (1) より参加しやすい研修の形を検討するとともに、要望のあった内容については豊富な校内リソースを活用できるような提案をするなど、実践の歩みを検証し、学びを継続していく。
- (2) 保護者の災害時訓練への参加を呼び掛ける取り組みや教員へのマニュアル周知を図る取り組みを行い、様々な状況下での災害を想定し、児童生徒の安全な避難とあわせて、長時間に及ぶ可能性を含めて保護者に引き渡しまでの待機方法について検討していく。
- (3) 「読書の充実」について、高等部は就業体験直後であり時期的に取り組みが難しかったため、教室内の読書環境整備など小・中学部とは違うアプローチを工夫して取り組むとともに、ICT活用も含めて全学部の児童生徒が日常的に本や読書をいしきできるよう取り組みについて検討していく。

3 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和7年度 富山県立しらとり支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	その他 (チーム力の向上)	
重点課題	「目指す児童生徒像」「しらとりスタッフポリシー(試案)」に基づく指導・支援の充実	
現 状	「目指す児童生徒像」実現に向けて、児童生徒のための指導・支援を行う際のスタンスとしての「しらとりスタッフポリシー(試案)」を令和6年度版として全教職員の意見をもとに策定した。「目指す児童生徒像」「しらとりスタッフポリシー(試案)」を踏まえた教育活動を具現化するための必要な姿勢と専門性を担保するためには、教職員が主体的に学ぶ機会を設定することが有効ではないかとの見立てのもと、今のチームしらとりによどのような学びが必要かを考え、研修等をチーム力向上PTとして企画運営する。 しらとり支援学校が、子供たちや教職員にとって、希望や目標を見つけて安心・安全に思い切り活動ができる学びの場になることを目指し、私たち教職員の資質・能力およびチーム力の向上に努めていきたい。	
達成目標	「チーム力向上プロジェクト」の企画・実施	チーム力向上PTが主催する研修会・勉強会への参加人数
	年間五つ以上	延べ100人以上
方 策	・チーム力向上PTにおいて、メンバーが知恵を出し合って「チーム力向上プロジェクト」を計画・実行する。 ・専門性を担保する上でしらとり支援学校のスタッフが身に付けておくべき事柄について、機を捉えて話題提供や研修会を行う。 ・PTメンバーが教職員のニーズに基づいた勉強会を企画し、教職員が自分の課題解決に向けて主体的に学ぶ機会を設けたり、それぞれのニーズに対するリソースの情報提供を受けて全体に紹介したりする。 ・研修会や勉強会の実施後、それぞれの担当者がアフターフォローを実施するなどして、主体的に学びを継続する機運を高める。	
達成度	「チーム力向上プロジェクト」の企画・実施	チーム力向上PTが主催する研修会・勉強会への参加人数
	企画数11 実施回数延べ23回	延べ260人程度
具体的な取組状況	・PTメンバーからは夏の研修会、授業づくり勉強会、全体への話題提供、小グループでの事例検討会など多岐に渡る企画が提案された。実施に向けては、全教職員を対象にどんな勉強会に参加したいかというアンケートを実施して企画内容の参考にした。 ・それぞれの企画を複数回行うなどして参加しやすい環境設定に努めた。研修会は主に夏季休業中に実施し、授業づくりや児童生徒理解の勉強会は要望があれば年間を通して実施できるようにした。 ・アフターフォロー企画を実施したり、しばらくしてからその後の実践状況を尋ねたり、継続的な学びや実践の定着につながるように努めた。	
評価	A	・ニーズにフィットした内容で企画し、職員会議で周知したことで、多くの先生方の参加につながった。特に外部講師による研修会前にプレ講座を実施したり、事後に日々の実践につなげるためのアフターフォロー講座を企画したりしたことは、研修への参加意欲の高まりやより深い理解につながったとの感想が多く聞かれた。 ・夏の研修会をきっかけに小グループでの勉強会を企画したり、話題提供を受けて自ら文献やホームページなどから情報を得ようとしたりするなど、自分たちから身近な学びの場をもととする動きがあった。 ・内部人材の利点を生かし、気軽に質問したり、相談したりできる関係が広がった。
学校評議員の意見	「目指す児童生徒像」「しらとりスタッフポリシー」とともに、学校教育が目指すところを十分にまとめられていて、そこにつなげるための多様な学びの機会をもつのはたいへんよいことである。今後は、実践の歩みを検証して次の段階につなげていくというプラスの循環に高めていってほしい。	
次年度に向けての課題	参加したくても日程が合わず参加できなかったという声があったので、より参加しやすい形を検討するとともに、要望のあった内容については豊富な校内リソースを活用できるような提案をしていく。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

重点項目	学校生活（防災体制の整備）	
重点課題	災害発生後のより確実で安全な保護者への引き渡しの体制整備	
現 状	昨年度は「地震に対する防災体制の充実」を重点課題として、地震時に児童生徒が主体的に避難行動をとれることと地震における避難マニュアルの学習会の実施を目標に取り組みを行った。大きな災害が発生した際には、避難するだけでなく、保護者への引き渡しを行うこととなる。昨年度はコロナ禍明けで、久しぶりに引き渡し訓練を学部別に行った。 保護者への引き渡しは、災害発生後すぐに授業の復帰が困難なときや、通学バスが運行できないときを想定している。昨年度の訓練後の課題と反省としては、どのような基準、タイミングで引き渡しを行うか、全校児童生徒が同時に引き渡しを行えるのか、保護者の駐車場があるのか、送迎がスムーズに行えるかなどの意見が挙げられた。 そこで、全校での引き渡し訓練を実施するとともに、災害発生から引き渡しまでのマニュアルを見直して教職員に周知する必要がある。	
達成目標	全校引き渡し訓練の実施	引き渡し時のマニュアルの見直し、マニュアルの学習会の実施
	2回	2回
方 策	・全校引き渡し訓練を2回実施する。1回目の反省を受けて改善を行い、2回目を実施する。 ・引き渡し時のマニュアルを見直し、見直した内容を教職員が理解して行動できるよう学習会を行う。	
達成度	全校引き渡し訓練の実施	引き渡し時のマニュアルの見直し、マニュアルの学習会の実施
	2回（100%）	2回（100%）
具体的な取組状況	・9月に第1回全校引き渡し訓練を実施した。概ね問題なく実施することができ、保護者アンケートでは、8割の保護者から「スムーズであった。」との回答があった。12月に第2回全校引き渡し訓練を実施した。問題なく実施することができ、9割の保護者から「スムーズであった。」との回答があった。 ・第1回全校引き渡し訓練の前に、担当者でマニュアルの見直しを行い、学習会で説明を行った。訓練後の反省をもとに、引き渡し時の教員の動きや駐車場係の業務について再度マニュアルを見直し、第2回全校引き渡し訓練の前に学習会で説明を行った。	
評価	A	・事前に保護者案内で、訓練当日の保護者の具体的な動きを地図等で示したり、保護者に負担のないように正面玄関で児童生徒を引き渡しできるようドライブスルー方式を取り入れたりしたことで、概ね問題なく実施することができた。約1/3の保護者に参加していただき、訓練後のアンケートでは約9割の保護者から「スムーズであった」と回答を得ることができた。 ・第1回訓練であがった課題を改善した引き渡し体制で第2回の訓練が実施できたことで、本校の課題である、たくさんの児童生徒を混乱なく確実に保護者に引き渡しできる体制を構築することができた。
学校評議員の意見	・大地震をどこまで想定して計画するかは難しいところもあるが、必要なことである。保護者の迎えがなく児童生徒が学校に長く残るときの対応や職員の動きも考える必要がある。 ・自治体として手伝えることがあれば応じたい。学校と地域と一緒にいろいろなことを想定しながら考えていきたい。	
次年度に向けての課題	・訓練に参加した保護者は約1/3とあまり多くなかったので、参加率を上げるような取り組みが必要である。 ・必要に応じて再度マニュアルを見直し、次年度の訓練の前に学習会を行い教職員への周知を図るようにしたい。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）

重点項目	図書委員会の活動の充実	
重点課題	読書の充実を目指した図書委員会の活動	
現 状	児童生徒の活字離れ、読書離れの傾向は社会の現状と同じく本校でも大きな課題である。また、障害の重度化、多様化に伴い、言葉や文字を媒介として学習することが困難な児童生徒が増えており、本に対する興味・関心が薄くなりがちで、児童生徒の読書習慣が身に付きにくくなっている。図書の貸し出しや閲覧などを通して、図書室の積極的な利用を促すとともに、お薦めの本コーナーや提示などの環境設定を工夫し、楽しい雰囲気づくりに努めているが、クラスによっては年間を通してあまり利用しないことが多い。一方、小学部の児童は数年にわたり巡回司書により読み聞かせを行ってきており、全校的に読み聞かせには興味関心が高く好きな児童生徒が多く、過去には図書委員会で読み聞かせのビデオを撮影し、学部集会で楽しく視聴してきた経緯もある。また友達の活動には注視する児童生徒も多い。 そこで校内読書週間を中心に図書委員を中心にした読み聞かせを行い、回数を重ねることで本に対する興味関心を深め読書のきっかけを増やしたいと考える。 また、読書週間中に児童生徒の読んだ本や視聴したお話の動画のタイトルを書いた葉っぱを貼った「読書の木」を作成し、読書に対する意欲や発表の機会としたい。	
達成目標	図書委員による読み聞かせの回数 (ビデオによるものも含む)	読書の木」に参加した児童生徒ののべ数
	5回以上	全校児童生徒の80%
方 策	- 小学部図書委員会による読み聞かせの実施及びビデオの作成と上映を行う。 - 中高等部図書委員による小学部への読み聞かせを実施する。 - 中高等部図書委員が読書週間に「読書の木」を2本作成し、全校児童生徒に参加してもらう。	
達成度	図書委員による読み聞かせの回数 (ビデオによるものも含む)	「読書の木」に参加した児童生徒ののべ数
	10回(小学部6回、中学部・高等部4回)	全校児童生徒の66%
具体的な取組状況	- 小学部集会で小学部図書委員がビデオ撮りした絵本のパネルシアターを発表した。集会に参加した児童は興味をもって視聴し、後日参加できなかった学年でもビデオ視聴が行われ、児童の要望により複数回視聴する学級も見られた。また、中学部・高等部図書委員が小学部1・2年の希望学級に紙芝居を使った読み聞かせを行った。 - 中学部・高等部図書委員が2本の「読書の木」を作成し、小学部図書委員作成の「お薦めの本ポスター」とあわせて11月末～2学期末までランチルーム前に掲示した。タイトル記入用の葉っぱを配り参加を呼びかけ、2本の木にあわせて197枚の葉っぱが貼られた。 - 時期を合わせて「絵本人気キャラクター選挙」を実施したり、図書委員お薦めの本を表紙が見える棚に置いて手に取りやすくしたり、教職員のお薦めの「読み聞かせ動画」を集め、図書室前に掲示したりした。	
評価	B	- 図書委員による読み聞かせの回数は10回となり達成目標をクリアした。読み聞かせを繰り返すことで、本の内容に興味をもち、図書室で本を手にする児童が増えてきた。 「読書の木」に参加した児童生徒ののべ数は66%となり、目標には今一步届かなかった。しかし、一人で複数枚貼ったり、貼られた葉っぱに興味深く眺めたりする児童生徒がおり、本に対する興味関心をもつきっかけとなる活動となった。
学校評議員の意見	- 現存の校舎では図書室のスペース確保に制約があることは理解しているが、児童生徒数に対して蔵書環境の更なる充実を望む。家庭で不要になった本の寄贈を募るなどしていろいろな蔵書を増やす工夫も検討してはどうか。 - 児童生徒がより身近に本に触れられるよう、学級文庫の設置など環境整備に期待したい。またICT活用が進んでいる現状を活かし、デジタルコンテンツと紙の書籍を併用した時代に即した読書活動の推進を進めてほしい。	
次年度に向けての課題	「読書の木」は本校の人数に対して3本は必要であった。また高等部の生徒が意識して貼りやすいように高等部の生徒が日常的に通るような場所に設置したほうがよかった。 - 重点課題の「図書委員会の活動の充実」は達成できたが、もう一方の「読書の充実」については小学部・中学部は進められたように思うが、高等部は「校内読書週間」が就業体験直後であり時期的に難しいため、違うアプローチが必要に感じる。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)